

1. 施設概要

カルテ No. 44

分 類	11 市民文化系施設 2 文化会館 1 文化会館 1		
施設名	栃木文化会館	住 所	栃木市旭町 12-16
建築年度	昭和 58 年（築年数 41 年）	構造・階数	RC 造・3/1 階
延床面積	7,916 ㎡	耐用年数	41 年
敷地面積	21,145 ㎡（うち借地面積 0 ㎡）	耐震性	有
区域区分	市街化区域	運営方法	指定管理
防災計画	指定緊急避難場所・指定避難所	所管課	文化課
利用状況	大ホール 159 日・60,122 人、小ホール 161 日・24,535 人、第 1 練習室 204 日・4,094 人、第 2 練習室 150 日・1,548 人、大会議室 213 日・11,339 人、会議室 236 日・3,784 人、和室（八嶋）47 日・871 人、和室（伊吹）44 日・771 人、応接室 87 日・699 人、展示室 153 日・18,980 人、屋外展示室 0 日・0 人 合計（延べ）：利用日数 1,454 日・利用者数 126,743 人		

2. 維持管理費

（単位：円）

	R1	R2	R3	R4	R5
歳 出(A)	65,148,919	59,937,113	66,177,636	91,652,945	79,656,225
歳 入(B)	18,168,017	6,387,564	10,846,601	19,281,122	22,466,016
コスト(A)-(B)	46,980,902	53,549,549	55,331,035	72,371,823	57,190,209

3. 施設の状態

点検・診断結果	・全体的に経年の劣化が見られたが、目視、触手、ヒアリングの限り設備に大きな不具合箇所はなかった。		
大規模改修年度	R8～	改修後の予定使用年数	20～30
大規模改修内容	大規模改修予定		

4. 施設の方向性及び目標

方 向 性	存続	進 捗 状 況	B
方 針	・本市の既存文化会館 4 館については、将来的には『立地適正化計画』に基づき、栃木複合的都市拠点（栃木駅・新栃木駅周辺）への集約を目指していくものの、今後、厳しい財政運営が見込まれており、文化会館の新設は困難な状況であることから、中長期的には栃木文化会館の長寿命化を図りながら使用していくこととする。		

5. 課題

・外壁や屋上をはじめとする躯体の劣化と舞台機構・照明・音響・空調設備などの老朽化が進行している。 ・設備の修繕をする際、部品の製造中止が多く、代用品や中古品で対応しているが、いつまで使用できるかなどのリスクが高い状況である。 ・開館当時はアナログ式の設備を設置していたが、現在はデジタル式を使用するため、変換器を入れて稼働させている。そのため、機器類に負荷を掛けていることで、故障などのリスクが高い状況である。 ・近い将来大規模な改修が必要になる。 ・利用者や来場者より、トイレの洋式化を要望されている。	
--	--

施設カルテ

令和 6（2024）年度

1. 施設概要

カルテ No. 45

分 類	11 市民文化系施設 2 文化会館 1 文化会館 2		
施設名	大平文化会館	住 所	栃木市大平町蔵井 2001-3
建築年度	昭和 63 年（築年数 36 年）	構造・階数	RC 造・2/1 階
延床面積	2,662 ㎡	耐用年数	41 年
敷地面積	7,180 ㎡（うち借地面積 0 ㎡）	耐震性	有
区域区分	市街化区域	運営方法	指定管理
防災計画	指定緊急避難場所・指定避難所	所管課	文化課
利用状況	中ホール 93 日・19,400 人、リハーサル室 94 日・1,661 人、展示室 11 日・497 人 合計（延べ）：利用日数 198 日・利用者数 21,558 人		

2. 維持管理費

（単位：円）

	R1	R2	R3	R4	R5
歳 出(A)	19,085,271	22,198,547	9,453,151	18,847,650	17,117,639
歳 入(B)	1,488,198	361,787	1,176,267	1,832,971	2,702,335
コスト(A)-(B)	17,597,073	21,836,760	8,276,884	17,014,679	14,415,304

3. 施設の状態

点検・診断結果	・非常用照明点灯不良及び避難口誘導灯のちらつきが見受けられるため、修繕が必要。 ・排煙窓開閉装置ハンドルがないため、修繕が必要。 ・エアコンが故障中であるため修繕が必要。		
大規模改修年度	R4～5	改修後の予定使用年数	10 年
大規模改修内容	屋上防水工事		

4. 施設の方向性及び目標

方 向 性	統合・複合化	進 捗 状 況	C
方 針	・『公共施設適正配置計画』及び『総合支所複合化基本方針』に基づき、地域複合施設の整備に合わせて閉館とする。		

5. 課題

・外壁や屋上をはじめとする躯体の劣化と舞台機構、照明・音響・空調設備などの老朽化が進行している。 ・開館当時はアナログ式の設備を設置していたが、現在はデジタル式を使用するため、変換器を入れて稼働させている。そのため、機器類に負荷を掛けていることで、故障などのリスクが高い状況である。 ・利用者や来場者より、トイレの洋式化を要望されている。

1. 施設概要

カルテ No. 46

分 類	11 市民文化系施設 2 文化会館 1 文化会館 3		
施設名	藤岡文化会館	住 所	栃木市藤岡町藤岡 810
建築年度	平成 4 年（築年数 32 年）	構造・階数	RC 造・2/1 階
延床面積	3,199 m ²	耐用年数	41 年
敷地面積	13,922 m ² （うち借地面積 971 m ² ）	耐震性	有
区域区分	市街化区域	運営方法	指定管理
防災計画	指定緊急避難場所・指定避難所	所管課	文化課
利用状況	中ホール 62 日・18,634 人、リハーサル室① 0 日・0 人、 リハーサル室② 1 日・4 人、多目的ホール 20 日・3,250 人 合計（延べ）：利用日数 83 日・利用者数 21,888 人		

2. 維持管理費

（単位：円）

	R1	R2	R3	R4	R5
歳 出(A)	9,758,215	9,041,418	12,323,658	13,921,122	13,455,904
歳 入(B)	1,960,525	452,595	2,026,400	2,436,972	1,770,517
コスト(A)-(B)	7,797,690	8,588,823	10,297,258	11,484,150	11,685,387

3. 施設の状態

点検・診断結果	・非常用照明の点灯不良が多数見られるため、早急な対応が必要。		
大規模改修年度		改修後の予定使用年数	
大規模改修内容			

4. 施設の方向性及び目標

方 向 性	統合・複合化	進 捗 状 況	C
方 針	・『公共施設適正配置計画』及び『総合支所複合化基本方針』に基づき、地域複合施設の整備に合わせて閉館とする。		

5. 課題

・経年劣化により、設備及び施設の老朽化が進んでいる。 ・開館当時はアナログ式の設備を設置していたが、現在はデジタル式を使用するため、変換器を入れて稼働させている。そのため、機器類に負荷を掛けていることで、故障などのリスクが高い状況である。 ・利用者や来場者より、トイレの洋式化を要望されている。	
---	--

1. 施設概要

カルテ No.47

分 類	11 市民文化系施設 2 文化会館 1 文化会館 4		
施設名	岩舟文化会館（コスモスホール）	住 所	栃木市岩舟町静 2303
建築年度	平成 5 年（築年数 31 年）	構造・階数	RC 造・4/1 階
延床面積	3,394 ㎡	耐用年数	41 年
敷地面積	20,910 ㎡（うち借地面積 0 ㎡）	耐震性	有
区域区分	市街化区域	運営方法	指定管理
防災計画	指定緊急避難場所・指定避難所	所管課	文化課
利用状況	中ホール 134 日・25,404 人、多目的ホール 88 日・6,195 人 合計（延べ）：利用日数 222 日・利用者数 31,599 人		

2. 維持管理費

（単位：円）

	R1	R2	R3	R4	R5
歳 出(A)	21,421,990	29,989,153	31,846,614	34,209,748	46,403,385
歳 入(B)	8,444,995	5,572,414	5,696,028	8,485,536	10,558,453
コスト(A)-(B)	12,976,995	24,416,739	26,150,586	25,724,212	35,844,932

3. 施設の状態

点検・診断結果	・全館各部分の非常用照明点灯不良、照度不足及び器具浮きが見受けられるため、早急に修繕が必要。 ・手洗器が使用不可のため、修繕が必要。		
大規模改修年度	R6～7	改修後の予定使用年数	20 年
大規模改修内容	中ホール音響設備・照明設備更新		

4. 施設の方向性及び目標

方 向 性	存続	進 捗 状 況	B
方 針	・岩舟文化会館については、音楽ホールとしての機能に優れ、中ホール・多目的ホールを有し使い勝手も良いことに加え、国道 50 号沿いに位置し交通利便性も高く、利用状況も良好であることから、当面の間は必要な補修を行いながら使用することとする。		

5. 課題

・経年劣化により、施設・設備の老朽化が進んでいる。 ・特に、照明、音響の故障が増加しており、早急な修繕が必要である。 ・開館当時はアナログ式の設備を設置していたが、現在はデジタル式を使用するため、変換器を入れて稼働させている。そのため、機器類に負荷を掛けていることで、故障などのリスクが高い状況である。 ・利用者や来場者より、トイレの洋式化を要望されている。
--